

手ぬぐい、たばこ、酒などを手渡し、旅の約束事を言い聞かせました。

今回は舟ではなく、歩いて行くため、道筋を尋ねると「冬の間、ここから徳富川の間は、まずは望来川の川筋から入り、阿蘇岩山の西南にある峠を越え、当別川の上流を渡つて、樺戸郡にある山の南のふもとに出で、ウラウシナイに出ることになりますが、今回は石狩川の本流に沿つて行きましょう」とのことです。

2月20日

四方の原野は春めいていて、遠くの方に煙のように春霞がかかつていて、西風に雪が舞う日もあり、本州では経験したことのない、気候風土の違いを感じます。

私たちは石狩川を東岸に越え、ワツカウイから山に入ろうとしましたが、辺り一帯は雪原で目標にする物が何ものないので、この状態を歌に詠みました。

いづくより 分やいらまし 白妙に
見ゆる限りは 雪の山端

(いつたいどこからこの雪山に分け入つて

探検を始めたらしいのだろうか

見渡す限り、真っ白な布を敷きつめたようだ)

この辺りは葦が茂る湿地で、冬の間は凍つてしまいま

すが、今の季節は氷が所々ひび割れて、その上を渡るのは非常に危険なので、あちこち迂回をしながら進みます。

雜木林に入つてしばらく行くと、石狩川の岸のオヨウに出ました。



冬の葦

イネ科ヨシ属の植物で、水辺に生える。たくさん並び生えるため、泥がたまりやすい。